

追悼 西岡鐵夫先生

矢加部 和幸^{1, 2)}

¹⁾熊本野生生物研究会, ²⁾熊本日日新聞社

西岡鐵夫先生が急逝されて10ヶ月。この追悼特集は2011年11月12日に熊本市の水前寺共済会館で開かれた「西岡先生を偲ぶ会」で配った「追悼集」を、編集し直して再掲したものです。

「追悼集」は、本会をはじめ西岡先生が会長を務めるなど、深くかかわった団体をお願いして、追悼文と写真

をご提供いただいて作成しました。さまざまな方面にあふれるような好奇心を持って、活発に活動してこられた西岡先生のすごさをあらためて見たような気がします。同時に、多くの人から深く慕われた、その人柄に思いをはせました。

追悼「ああ、テッペイしゃん」

今江 正知

テッペイしゃんこと西岡鐵夫君は63年来の親友であった。去年、モキッちゃんこと中島最吉君（元熊大教授、崇城大副学長）が亡くなり、寂しい思いをしていたが、相次いで2人のかけがえのない友を失い、言葉に言い尽くせない。

西岡、中島の両君とは昭和23年、旧制五高の生徒として出会った。私は前年の入学だから、1年先輩の同級生だった。1年先輩という関係は、何年たっても失われることはなく今まで続くが、本当に悪い先輩を持ってテッペイしゃんには迷惑だったかもしれない。

ところで「鐵夫」なのになぜテッペイと私が呼ぶのか。そしてテッペイしゃんが素直に「はい」というのか。五高の入寮の時だった。当時、寮長の飯尾憲士が新人の点呼をした際、間違えて「西岡テッペイ」と言ってしまった。「よく似た名前同級生がいるなあ」と思って聞き流していたところ、「宮崎中学の西岡テッペイ」としかかれて初めて自分のことと分かった。以来、同級生に「テッペイ」が定着した。

昭和23年は五高最後の入学生。学制改革に伴って五高は熊本大学となり、翌年、私たちは1回生として理学部生物学科に入った。テッペイしゃんは小さいころから花を育てるのが好きだったが、動物の方へ進み、小山準二先生の前で動物の分類をやった。私は植物へ進んだが、同じ生物科ということでもいつも一緒だった。

昭和28年、卒業と同時に彼は熊本信愛女学院の教師となった。恩師の小山先生のひと言で決まったようだが、信愛ではコーラス部をつくって生徒たちとよく歌っていた。翌29年、熊本博物館の開館に伴い、その職員となった。博物館の開館が遅れたためのいわばつなぎの教師生活だったが、たった1年間とはいえとても楽しかったようだ。

さて、開館したばかりの博物館を仕上げしていく作業は大変だったに違いない。博物館に対する理解がほとんどない時代だから笑い話のようなことがたくさんあった。

「博物館の仕事で評価の高い順番は①チョウの採集などにでかける②事務室で書類を書いている③事務室で碁を打っている—3つのうちどれだ」と聞かれたことがある。答えは②③①。採点の基準は②は仕事をしているから+。③は仕事をしていないのでゼロ。①は自分の趣味をしているから—だというのである。また、「熊本市立なのに、なぜ阿蘇や天草なのか」といった雰囲気の中で、自分流を貫いて、博物館の基礎を作ってきた。

博物館は熊本城の本丸でスタートし、勸業館に移り、昭和53年に現在地に移転した。現博物館はテッペイしゃんのこだわりそのものといえるかもしれない。蒸気機関車、プラネタリウム、五家荘の原生林を再現したジオラマ…。特にジオラマは当時珍しく、現地でブナを切り倒し、コケから滴る水も再現させた。とはいえ30年以上がたち、リニューアルの話が進んでいると聞く。テッペイしゃんをはじめ博物館にかかわってきた多くの先輩の思いを大切にリニューアルをして欲しいと願わずにいられない。

私は今の時代、博物学を復活させねばならないと思っている。森羅万象に関心を持ち、その一つ一つを自分の目、耳、鼻、手で実際に確かめるという博物学の基本に立ち返る必要がある。いろんなことが活字や映像となり、情報として出まわり、実際にそのものを見なくても見たような気分になれる時代だからこそ、博物学が必要なのだ。

テッペイしゃんは博物学を誠心誠意実行した人である。専門の動物はもちろん、植物や天体など、その関心の幅は広く、知識も深かった。実際に自分の目で見て触って確かめた知識だった。そしてそれを多くの人に伝えようとした。動物、植物、天文など幅広い愛好会の育成に努めてきた。博物館の学芸員を天職とし、あらゆる場面でその思いを徹底して貫いてきたテッペイしゃん。まさに現代の博物学の実践人といえる。これから彼の知識、経験が本当の意味で生かされる時代だけに、早逝が残念でならない。

各種経歴 (平成18年7月23日作成)

学歴・職歴

- 昭和18年3月 宮崎市立第一小学校 (国民学校) 6 学年卒業
- 4月 宮崎県立宮崎中学校第1 学年入学
- 20年3月 熊本陸軍幼年学校 (49期) 第1 学年入校
- 9月 宮崎県立宮崎中学校第3 学年に復帰 (終戦による)
- 23年3月 同校第5 学年卒業
- 4月 第五高等学校理科第1 学年入学
- 24年3月 同校理科第1 学年終了 (学制改革による)
- 9月 熊本大学理学部第1 学年入学 (学制改革による)
- 28年3月 同大学理学部生物科第4 学年卒業
- 4月 熊本信愛女学院勤務
- 29年4月 熊本市立熊本博物館勤務
- 33年8月 同 学芸員
- 45年10月 同 副館長
- 61年4月 同 館長
- 62年4月 熊本市教育委員会事務局次長 (教育次長)
- 平成元年4月 熊本市企画広報部付審議員 (文化行政担当)
- 2 年4月 熊本市立熊本博物館首席学芸員 (局長級)
- 2 年11月 定年退職



五高時代 (1949年ごろ)



小山先生 (中央) と熊本大学の学友らと
(前列右から2 人目が西岡さん)

委員

大学講師及び官公庁関係

- 熊本大学教養部講師 (非常勤) 昭和53年～平成9 年
- 熊本大学文学部講師 (非常勤) 53年～平成18年
- 熊本県自然環境保全審議会委員 53年～平成11年
- 熊本県鳥獣保護センター運営協議会委員 56年～平成16年
- 九州電気通信局利用者代表会議委員 56年～60年
- 熊本電気通信部お客様代表者委員会委員長 56年～60年
- くまもと緑の財団運営委員会委員 平成3 年～現在
- 熊本県自然保護関係団体協議会会長 4 年～10年
- 同 顧問 11年～現在
- 熊本商科大学講師 (非常勤) 5 年～7 年
- 九州東海大学講師 (非常勤) 6 年～14年
- 熊本県環境センター環境教育指導者 7 年～現在
- 立野ダム環境検討委員会委員 7 年～現在
- 熊本県環境影響評価審査会委員 8 年～17年
- 熊本博物館協議会委員副委員長 8 年～現在
- 熊本県希少野生動植物検討委員会副会長 8 年～18年



30キロを超える荷物をしょって坂道を登る西岡さん
(阿蘇外輪一周調査・1964年5月)

熊本県環境審議会委員 9年～14年
 熊本県野生鳥獣保護管理検討委員会会長 10年～現在
 九州新幹線氷川橋りょう鳥類調査検討委員会会長 12年～現在
 熊本県松くい虫被害対策推進委員会委員 12年～現在
 崇城大学芸術学部講師（非常勤） 13年～現在
 緑川流域会議委員 14年～現在
 阿蘇小国郷鳥類検討会会長 14年～16年
 阿蘇小国郷環境情報協議会会長 16年～現在
 熊本県指定管理者選定委員会委員 16年～現在
 日田・鹿本線環境影響協議会会長 16年～現在

研究団体関係

熊本記念植物採集会幹事 昭和37年～42年
 同 理事・顧問 43年～現在
 肥後朝顔涼花会幹事 37年～60年
 同 顧問 61年～現在
 熊本野草の会常任講師 42年～62年
 同 顧問 62年～現在
 熊本洞穴研究会幹事 43年～45年
 同 副会長 45年～51年
 同 会長 52年～54年
 熊本天文研究会理事 43年～55年
 同 会長 56年～57年
 熊本県民天文台(旧熊本天文研究会)台長 57年～58年
 同 名誉会長 59年～現在
 熊本野生生物研究会会長 平成3年～現在
 日本野鳥の会熊本県支部長 3年～11年
 同 顧問 11年～現在
 熊本巨樹の会副会長 8年～現在
 熊本在住宮崎県人会会長 15年～現在
 ほっとみやざき観光大使 17年～現在

博物館関係ほか

阿蘇火山博物館学術部門専門委員 昭和55年～57年
 熊本県少年自然の家調査専門委員 56年～57年
 阿蘇野草園造成事業調査員（熊本県） 56年～58年
 荒尾総合文化センター子ども科学館専門委員
 副委員長（荒尾市） 59年～平成4年
 石匠館（旧ふるさと歴史資料館）構想委員会副会長
 平成元年～6年

研究・報告・著書

昭和39年12月 『ベッコウサンショウウオ卵囊発見について』(財)日本科学協会“採集と飼育”

VOL. 26 NO. 12

44年3月 『人吉・球磨・五木・五家荘地区の爬虫類・両生類・魚類について』熊本県
 47年3月 『内大臣における爬虫類・両生類・魚類について』矢部町
 49年3月 編著「熊本の動物」『熊本の風土とところ』第2巻 熊本日日新聞社
 54年3月 『動物分布調査報告書（両生類・爬虫類）』第2回自然環境保全基礎調査 環境庁
 55年10月 編著「熊本の天然記念物」『熊本の風土とところ』第22巻 熊本日日新聞社
 56年3月 『動物分布調査報告書（両生類・爬虫類）』(財)日本自然保護協会
 57年11月 『菊池溪谷の動物（爬虫類・両生類）』熊本洞穴研究会
 平成4年8月 『熊本城を科学する（熊本城、謎解きの道）』熊本大学放送公開講座
 5年11月 『泉村の自然（爬虫類・両生類）』八代市
 6年8月 『阿蘇（阿蘇の動物）』熊本大学放送公開講座
 7年7月 『くまもと自然大百科（爬虫類・両生類）』熊本日日新聞社
 10年3月 『熊本県の保護上重要な野生動植物』熊本県
 11年3月 『くまもとの希少な野生動植物』熊本県
 14年3月 『博物館実習マニュアル（両生類・爬虫類の採集と標本作製）』全国大学博物館学講座協議会西日本部会
 15年3月 『新・宇土市史（爬虫類・両生類）』宇土市
 16年8月 『阿蘇町史（阿蘇町の動物）』阿蘇町
 17年7月 『泉村村誌（爬虫類・両生類）』泉村

海外研修

昭和55年5月 台湾・韓国の公私立博物館視察
 57年10月 イタリア・オーストリア・ドイツの公私立博物館視察
 59年8月 中国・桂林の公私立博物館視察
 平成3年7月 アメリカ・ハワイ島にて皆既日食観測
 7年9月 アメリカ・ワシントン州オリンピック国立公園視察

免許

昭和28年 中学校教諭一級普通免許（理科）
 高等学校教諭二級普通免許（生物）
 29年 学芸員（自然科学）